

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 理工学部 |
| 大項目 | 9 教育研究等環境 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 |
| 要素 | 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 |
| | ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 |
| | 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|---------------------------------------|-----------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 全学で検討されているLAを有効活用する仕組みを2013年までに作る。 | → LAの雇用人数。 | D | D | | | |
| 2. 教員の研究時間を確保する。 | → 教員1人あたりの委員会数。 | C | C | | | |
| 3. 理工学部と関連する倫理規定について啓発活動を行う。 | → 倫理講習会の開催回数。 | A | A | | | |
| 4. セミナーが適切な人数で行える施設を確保する。 | → セミナーに使える教室数。 | C | C | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|---|--|
| ☆ | 9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 |
| | (方針) 2009年度に行われた2学科・1専攻の新・増設に伴い学生数の増加が生じており、それに伴い教室、セミナー室、自習・食事・休憩スペース等ならびに教育支援のための人員(TA・RA、技術スタッフ)の確保が課題となっている。学生増に見合った数の教員が新規に採用されているが、優れた学生の確保や多様な学生の教育のために教員の教育にかかる時間は増加傾向にあり、大学院教育の活性化と密接に関連する教員の研究時間や研究費獲得に要する労力・時間の確保がますます難しくなっている。このような現状で教育研究を支援する環境や条件を整備するための方針として、現有施設・設備の整備と転用、大学院進学率の維持、向上とTA・RA・LA(ラーニング・アシスタント)の人材および財源確保、会議の簡素化、プロジェクト研究の推進の実現を図っていく。 |
| | (説明) 理工学部では従前より学生実験やコンピュータ演習等の為のスペースや設備等に関しては充実した状況にあり、2009年度にはV号館とVI号館の共用が開始され、IV号館でも少人数のセミナー室を2部屋確保することができた。2010年度については学生実験室の改修工事を行い、いわば知恵を絞ることで現有のスペースをより使いやすいものにするという方策を取ったが新たなスペースの構築には至らず、学生数の増加もあり苦しい状況に追い込まれつつある。TA・RA・LAなどの教育支援要員を取り巻く状況についても大きな進展は認められていない。卒業研究を中心とする学部教育とも密接に関係する先端的研究環境の整備については、2010年度は3件の文部科学省私立大学戦略研究基盤形成支援事業への採択があった。これらの事業を通してRA、博士研究員などが多く採用され、学部学生にとっても刺激となっている。外部資金、特に科研費については近年[採択率/専任教員数]の漸減が懸念されており、申請書作成のための講習会も開催されているが、一足飛びの効果は表れていないのが現状である。一部の教員に過重な負担が集中する傾向は学生増などにより悪化し、これらの教員の研究時間の確保は困難な状況にある。 |
| ☆ | その他 |

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

| 【理工学部】 | | | 単位 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 備考 |
|--------|---------------------------|---------------|----|------|------|------|------|------|--|
| 指標1 | 教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数 | 教学補佐 | 人 | 186 | 190 | 181 | 180 | 206 | 他に、(2005、2006年度)教育技術主事8、実験助手1、契約助手3(2007年度)教育技術主事7、実験助手1、契約助手4(2008年度)教育技術主事5、実験助手1、契約助手4(2009、2010年度)教育技術主事4、実験助手1、契約助手6(2011年度)教育技術主事3、実験助手1、契約助手7 |
| | | 実験実習指導補佐・教務補佐 | 人 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | | 授業補佐 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 指標2 | 専任教員の担当授業時間(平均) | 教授 | 時間 | 19.0 | 19.7 | 18.0 | 17.8 | 20.0 | 45分をもって1時間に換算 |
| | | 准教授 | 時間 | 18.1 | 18.1 | 16.3 | 17.1 | 18.4 | |
| | | 講師 | 時間 | 10.0 | 16.5 | 21.6 | 14.0 | 18.4 | |
| | | 助教 | 時間 | — | — | — | — | — | |

(その他の指標データ)

- 専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】
- 専任の研究旅費【大学基礎データ】
- 学内共同研究費【大学基礎データ】
- 教員研究費内訳【大学基礎データ】
- 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
- 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
- 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
- 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
- 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | | |
|---|----------|--|
| ☆ | 小項目9.0.4 | 理工学部では人権、障がい者、倫理等に関する研修会を毎年1回開催している。また動物実験、ヒトゲノム、遺伝子解析研究に関する安全倫理委員会があり、年に1回講習会を開催している。 |
| | その他 | |

↓

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | | |
|---|----------|--|
| ☆ | 小項目9.0.4 | |
| | その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | | |
|---|----------|--|
| ☆ | 小項目9.0.4 | 2010年度は大学全体でのLA制度についての進展がなく、理工学部においても成果が見られなかった。2011年度に大学の方針が決まり次第、理工学部としてのLA体制を整えていく。 |
| | その他 | |

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | | |
|---|----------|--|
| ☆ | 小項目9.0.4 | |
| | その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○様々な制約はありますが、教員の研究時間の確保、施設整備が更に進展することが望まれます。研究倫理規定の啓発活動は大変進んでいます。

【学内委員】

○教員の担当授業時間は他学部と比して多い様です。これは他校と比しても多いのでしょうか。

○L A制度については、大学の方針がきちんと示されなかったため、今年度のD評価はいたしかたがないものと思われます。これが実現すれば、教員の負担減にもつながると思われますので、実施に向けた対策の検討が望まれます。セミナーに適したスペースの確保は、スペースの見直しなどにより、いくらか具体化できた点は評価できます。しかし、学部全体ではまだ不足状態は改善しておらず、今後も運用上の工夫などが必要と思われます。倫理規定の啓もう活動に関しては、積極的な取り組みがなされており、非常に高く評価できます。

○記述は要素に従っており適切です。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・教員の研究時間の確保については、一部教員への負担の集中を避けるべく、公平は仕事の割り振りが求められます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

9.0.4(現状説明)

★ 理系学部の教員は講義科目に加えて実験・演習科目や卒業研究を担当するため、担当授業時間は多くなる傾向にある。他大学では助教、任期制助教等の若手研究スタッフを活用することで教員の負担軽減を図っているが、そのような若手研究スタッフを有しない本学の理工学部教員の場合、さらに負担は重くなっていると言わざるを得ない状況にある。